緋弾のアリア～最大の運を持つ者～

勇者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
緋弾のアリア～最大の運を持つ者～

【Ｎコード】
Ｎ１９９２ＢＡ

【作者名】
勇者

【あらすじ】
人類最大の運を持つ幡川　真は神崎・Ｈ・アリアと出会ってしまってどんどん不幸になっていく。まあ、そんなに運がよいのを見せないが

早速だけど僕の名前は、幡川（はたがわ）　真（しん）二つ名は『神の生まれ変わり』らしいなぜそう言われるかというと僕は正直運が良すぎるからだ。後はマジで僕が強いからだ。だけど今日生まれてはじめて不幸なことが起こった。それは、神崎・H・アリアとの出会いだ。その出会いのせいで僕の人生が大きく変わってしまった……

……

「どうも、幡川　真です。今キンジの部屋の中にいます」

「何に向かって挨拶してんだよ。運がよすぎてとうとう頭がおかしくなったのか？」

「今喋ったのは遠山キンジ。探偵さ」

「だから何に向かって紹介してんだよ」

「なんだよキンジ、はじめの挨拶は大切だろ。しかも『探偵さ』についてはスルーかよ！まあいいけど、ほらおまえも挨拶しろ」

「なんで俺まで壁に向かって挨拶しなくちゃならないんだよ」

「視聴者のためだろ！」

「なにきれてんだよ。どこにも視聴者なんていないだろ！それは壁だ！」

「まあ、いいからいいから、とりあえず自己紹介の練習しよう」

「だから何でだよ」

「絶対に今日役に立つって、だから自己紹介の練習をしよう」

「嫌だ恥ずかしいサイドから見ると変態じゃないかよ」

「変態じゃないかよ。たとえ変態だとしても変態という名の紳士だよ」

「くまきちの真似すんな。さむい」

「え？今の面白くなかった？いいと思ったんだけどな」

ピン、ポーン

「キンジ、おまえの嫁（幼馴染み）がきたぞ。きっと」

「今、何て書いて幼馴染みって言った！く、今からお前がすべったのに対していじってやろうと思ったのに、本当に運のいいやつだ」

あ、キンジがどっか行った。この間に装備の準備をしよう

「視聴者たちよ。僕の使う銃、何丁だと思う？刀は何本だと思う？答えはＣＭの後……あ、これすべったな」

「答えは銃は二丁、刀は一本でした。わかった人はいるかな？あ、ちなみにＣＭっていうのは飯を食べていた」

「おい、何また壁に向かって喋ってんだよ」

「あれ？キンジ嫁（幼馴染み）は帰ったのか？」

「なにまた嫁と書いて幼馴染みって言ってんだよ」

「ソンナコトイッテナイヨ」

「かたことっ！？」

「で、今日おまえ、チャリなのか？」

「だったらなんだよ」

「もー、わかっちゃってる癖にー」

「乗せねぇぞ」

「僕とキンジの中じゃないか。っていうことで今日始業式だしそろそろ行こう」

「ったくしょうがないな。よろこべ」

「ヤッター、ウレシイナ」

「またかたことかよ」

もうキンジはかたことに敏感だなぁ

……

この時にキンジとなんか学校に行かなきゃよかったかもしれない。
何故ならあのちびっこに会ってしまうのだから

……

「なあ、キンジ今の状況について言ってくれ」

「おまえだってわかるだろ！おまえがチャリの後ろでのんびりしていて、俺がチャリで激走中だろ」

「何で激走中なの？」

「そんなの決まってる！セグウェイに追われてんだろが！」

「うん、満点。武器縛りがあるしねぇこれはきついなぁ」

「こいでんの俺だからおまえは疲れねぇだろ！」

「いつもお世話になりますねぇ」

「ふざけてる場合じゃないだろ！どうすれば助かるか考えてくれ」

「キンジを盾にして逃げる」

「却下だ」

「炎髪灼眼の美少女が助けに来てくれる」

「アニメの見すぎだ。な！？あいつ何やってんだよ」

「わぁ、自殺志願者だ」

「そこの二人！頭下げなさい！」

「ほら、炎髪灼眼じゃないけど僕たちを助けに来てくれたじゃないか」

「そこのちびっこキンジだけ連れていってくれ」

「ちびっこじゃない！！！あんたはどうする気よ？」

「逃げる」

「わかったわ。じゃあそこのこいでるやつ、捕まりなさい」

「なんかキンジがギャルゲーの主人公に見えてきた」

キンジがちびっこと抱き合って離脱した

「この爆弾ってやっぱり爆発するよね。よし、今日はセグウェイで登校しよう」

とうっ、えーと、刀でＵＳＩは切った方がいいよね。切った

「うわっ、このセグウェイ自動だ。まあ大した問題じゃないか」

僕は飛び降りた。その直後キンジの自転車が爆発した。はあ、リア充もああなればいいのに

「さてと、キンジの飛んでったところに行こうかな」

そうして歩き始めた

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1992ba/

緋弾のアリア～最大の運を持つ者～

2012年1月5日00時51分発行